

Ⅱ. 活動を考える



1. 活動の種類とバランス

日本語教室では、以下のようないろいろな活動が行われており多くの教室はこれらを組み合わせて活動をしています。

では、教材『つながる にほんご』は、どのような活動に使えるのでしょうか。

文法文型活動

文法積み上げ式の教科書（例『みんなの日本語』）を使い、日本語の文法文型を難易度順に学ぶ活動

→教材『つながる にほんご』は、文法文型を学ぶために構成された教材ではないので、文法文型活動に利用する場合、かなり工夫が必要です。

場面・タスク活動

コミュニケーションが必要な場面（郵便局、レストランなど）や達成すべきタスク（欠席連絡、道を聞く）などがあり、その際に必要な知識や日本語表現を知る活動

→教材『つながる にほんご』で活動できます。

主に、「2.6 話 バスに乗りましょう」「3.4 話 健康診断」「4.4 話 子どものようす②」「4.5 話 ママ友」「4.8 話 担任の先生に連絡する」などです。

^{*2}対話活動

興味のある話題で、互いの考えや想いを交わす対話を重ねながら相手や自分を理解し、そこから自分の考えをより深めていく活動

→教材『つながる にほんご』で活動ができます。

どのテーマでも対話活動へつなげられますが、「対話」は互いのコミュニケーションによって生み出されるため、教材からどう話題を発展させるかがポイントになるでしょう。

*2：対話…人と人との話のやりとりのうち、特に、異なる価値観を持った人との情報共有や価値の擦合せを目指すやりとりのこと。詳しく知りたい場合は『対話のレッスン』（2001）など平田オリザ氏の著作がお勧めです。

テーマ活動

お盆、お正月、節電、地震など、テーマを基に「日本語学習・タスク達成・対話」などを行うことが目的の活動で、複合的な活動です。

また、「日本語学習」などを目的とせず、単にテーマについて知る、又は体験する活動もあります。(例：すもう、習字、節分)

→教材『つながる にほんご』で活動ができます。

教材内の各話が上記のテーマに当たります。

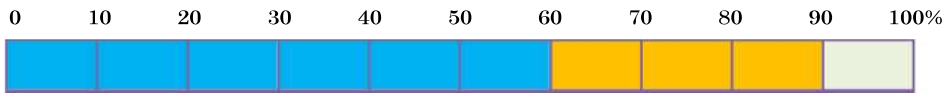
交流イベント活動

各国料理会、お花見、見学旅行、バザー、スピーチコンテスト、地域フェスティバルなどのイベントとその準備活動

→この活動では通常教材は使いませんが、例えば、見学旅行の準備として「2.6 話 バスに乗りましょう」「5.6 話 防災センター」「5. 話 防災訓練」を使ったり、スピーチ題材を考えるための材料として「1.2 話 私たちの神奈川」を使ったりすることができます。

☞ 皆さんの教室はどんな活動が多いでしょうか。活動はどんな割合になっているでしょう。

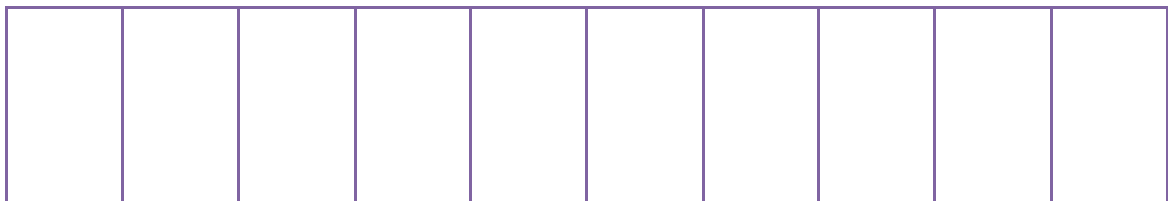
うちの教室は、初めの1時間はペアで教科書を使って文法などを勉強しています。その後、残りの30分は5、6人のグループに別れ、その日の当番が決めたテーマをみんなで話します。司会進行を中上級学習者がするから、ボランティアがリードする活動とは違って、学習者も生き生きと話していますね。それに時々、お花見やバザーイベントもするし。だから全体的には…



うちの教室は、①文法文型 60% ③対話 30% ⑤交流イベント 10%ですね。

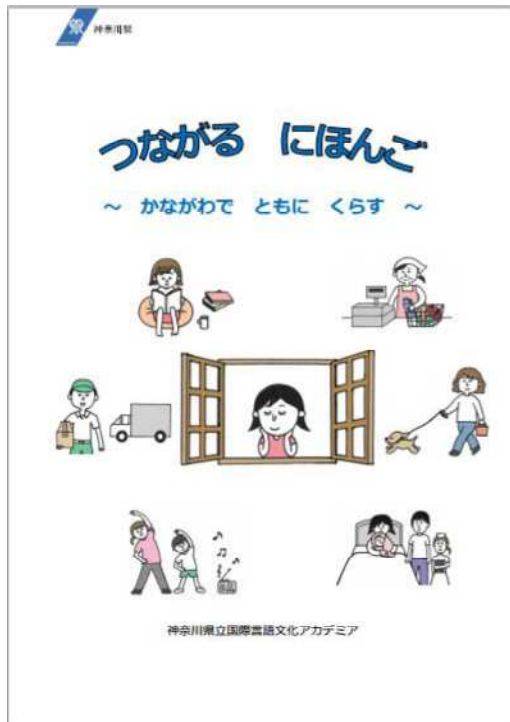


0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%



2. 教材『つながる にほんご』を使った活動

(1) 教材『つながる にほんご』とは



タイトルにもあるように、人と人、また、人と地域がつながるための日本語を目指した教材です。教室に参加する学習者もボランティアも、同じ地域の住民として互いに尊重しあいながらともに暮らし、より豊かに生きていく力を目指しています。

具体的には、以下の目標を意識しています。



『つながる にほんご』の目標

- ① 双方向コミュニケーション（相手を尊重し、傾聴しあう姿勢）を重視する。
- ② 社会で豊かに「生きていく力」（社会資源の理解や活用など）につなげる。
- ③ 対話を通じて支援者も学習者もそれぞれの課題を発見し、一緒に解決を探る。
- ④ 教室の外への働きかけやつながり（社会参加）を生み出す。



日本社会の中で暮らすためには、おなじみの4技能（読む・書く・聞く・話す）以外にも「人とつながり、社会で生きていく力」が必要です。その力が『つながる にほんご』の目標とする力です。

そのため、日本語の習得についても、語句や文法の正確さより、現実にかげできる力 d の方を優先しています。文法的に正しい表現よりも、「相手が快く受け入れてくれる表現」ができる方が大切です。

でも、どんな人が、
どんなふうにする
教材なんだろう？



ボランティアと学習者が一緒に活動するための教材です。
ペアよりもグループで使った方が、それぞれの経験や考え方の違いや発見が
あって、楽しい活動になります。ペア活動が基本の教室でも、2、3ペアを1
グループにして、特別活動として楽しんではどうでしょう。



日本語学習者は、一般的な「日本語力」で言えば、「ひらがなが読
める日本語初級前半」（『みんなの日本語』初級Ⅰ終了）くらいの方を
イメージしています。

しかし、「日本語力」は一概に測れませんし、使い方によっては、
日本語入門の人とも活動できます。（p48 の実践例 参照）

文法などの体系的な日本語学習には、すでにある教材が数多くあるので、
『つながる にほんご』には、体系的な日本語学習はあえて入れませんでした。
また、連続学習も想定していないので、どこからはじめても、一部分だけ
使用してもかまいません。

地域の日本語教室は、外国人が主に日本語を学ぶための場として開かれ、その日本
語学習を支える人は「(日本語) ボランティア」と呼ばれています。しかし学習者にと
って、地域の日本語教室は、日本語学習だけではなく、日本社会や日本人とのつきあ
い方を知り、地域生活などの情報を収集し、人と知り合いつながる場でもあります。

また、最近では、外国人だけではなく、「日本人も、同じ地域の住民として共に生き
るために、学ぶべきだ」という声も聞かれるようになりました。そうした考え方から
すれば、教室に関わるすべての人が学ぶ人といえるでしょう。

『つながる にほんご』はその副題で「かながわで ともし
くらす」とうたっているように、日本語を介した場での
共生の学びが生まれることを願っています。



(2) 活動案を立てる

。教室活動で『つながる にほんご』を使うとしたら、どういう位置づけで使いますか。

- | |
|---------------------------------------|
| A. 『つながる にほんご』を、毎回活動のベース教材として使う |
| B. いつもは他の教材を使っているが、1回だけ『つながる にほんご』を使う |
| C. いつもの活動の合間に、15分～30分の活動として使う |



もちろん、Aでもいいのですが、おそらく、B、Cの使い方をすることが多いのではないのでしょうか。

では、Cのように使うとして、まずは、30分の活動を考えてみましょう。

活動を考える手順

1) 『つながる にほんご』から、学習者に必要な（又は、興味がある）テーマ、話題を探します。



行動範囲を広げてほしいから「交通」のテーマにして、
〇〇さんは教室まで自転車で20分かけて来るから、
「2話 自転車ルール」にしてみよう。

2) 扱う話題（～話）の内容を考え、どのような順番で行うか考えます。

活動は、次のような構成で組み立てます。

- ①導入・・・テーマに関係がある軽い活動。ゲーム等をする場合もありますが、簡単な問いかけから始まる場合も多いです。
- ②展開・・・基本内容を扱う、活動の中心部分です。
- ③発展・・・②の応用、発展、+αの内容です。省略する場合があります。
- ④まとめ・・・①～③をまとめる活動です。



- ① 導入：『つながる にほんご』の2.2話 1(2)(p20)を話そう。
- ② 展開：『つながる にほんご』の2.2話 2(1)(3)～(7)(p20-22)の切り抜いたイラストだけを見せ、〇×などを話そう。
- ③ 発展：それぞれの国の自転車ルールを聞こう。
- ④ まとめ：『つながる にほんご』の2.2話 2(p20-22)を使おう。

→この活動プランをまとめると、次のようになります。

活動素案（30分）

活動グループ：3人 ○○さん（中国）、△△さん（韓国）、□□さん（タイ）

活動目的：日本の自転車事情を知り、生活に生かす。

活動目標：出身地域との自転車事情の違いを理解し、日本の自転車ルールを知り、安全に利用できるようになる。

（乗らない人も、社会マナーや歩行者の立場として知っておく）

準備：『つながる にほんご』（p20-22）のイラスト〔2.2話 2（1）（3）～（8）の枚〕をカード化しておく。

①雑談（それとなく、自転車の話題を出す）



イラスト a



イラスト b

②みんなの国の自転車事情を聞く。

③イラストカード を見せ、日本の交通ルールでは かどうか、聞く。

④文型学習「自転車は、3人まで のってもいいです。（5人で のってはいけません。）」

⑤イラストカード を見せ、「傘をさして、のってもいいですか？」

「携帯電話で話します。のってもいいですか？」

⑥文型学習「携帯電話で 話しながら、のってもいいですか？」

⑦その他のイラストカードを見せ、同様に交通ルール上 かどうか、みんなで考える。

⑧各国の交通ルールも一緒に聞いてみる。

⑨最後に『つながる にほんご』2.2話 2（p20-22）で日本の自転車ルールを復習確認。

*（8）→被害者になった場合の対処法（交番への届け出、相手の連絡先、保険）も確認する。

コラム「私は何？ — 自己紹介の落とし穴」



初級の最初は自己紹介で始まります。「〇〇です」と簡単な名詞文です。〇〇に入るのは、名前、国（～人）、職業、年齢などが代表的です。

問題は職業です。学習者の中には仕事をしていない人もいます。在留資格の問題や、日本語力のせいで働けないのかもしれませんが。その人が女性の場合、空欄には職業名のかわりに「主婦」の二文字を入れて教えてはいませんか。

「主婦」も社会を支えるりっぱな一員だと考える文化背景があれば、誇りをもって「主婦」と名乗れます。しかし、「主婦」と言われることをとても残念に感じる人もいます。

私は貿易事務をこなしてきた、自動車販売店のマネージャーだった、土木関連の専門的な計算をしてきた…彼女たちがそれまで築いてきたキャリアが日本では無に帰したような気持ちになります。「今はしていない」だけなのに、「外で働いたことがない」人のように扱われていると感じるそうです。ボランティアのほうは決してそんなことを思っていないのですが。

ですから、現在「主婦」である人たちには、「お国で仕事は？」を尋ねてみてください。日本語ゼロでは無理かもしれませんが、一生懸命伝えてくれるのではないのでしょうか。指差し会話帳などを利用してよいですね。そしてその後、それにふさわしい「日本語」を見つけ出してあげることが、日本語ボランティアの役割だと思います。

十分内容を聞かないで「ああ、ね」は です。仕事はその人の社会的なアイデンティティなので。所属でなく仕事内容で理解されたいという思いが強い人もいます。これぞというぴったりの呼称が見当たらないときには、「〇〇関係の専門職」という表現も便利です。それに、そういう言葉こそが、彼女たちが日本社会へ歩みを進める時に大事な言葉なのです。